20代による「つなぎ手」計画

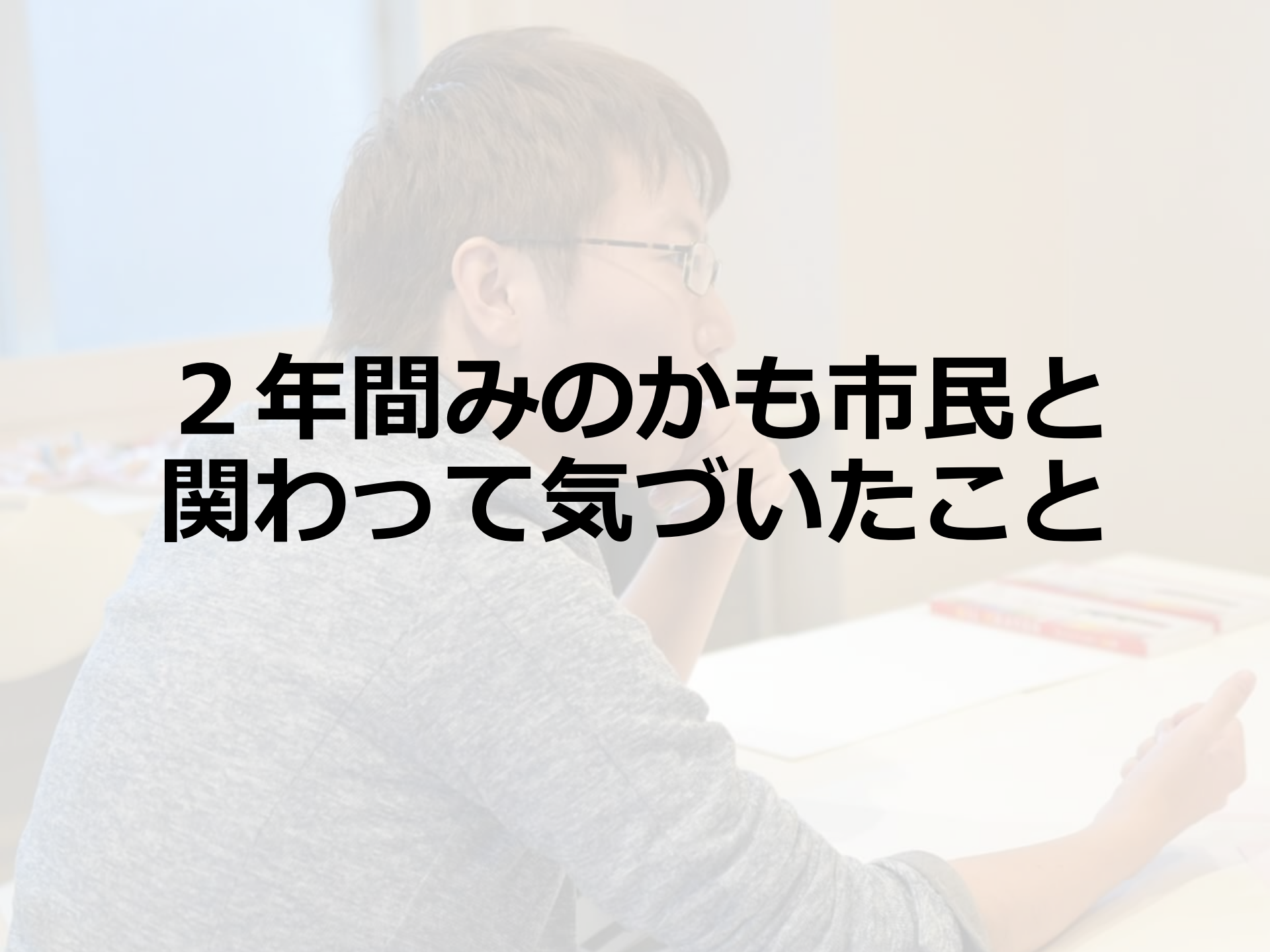
若者委員会委員長　山口寛之

自己紹介

・みのかもとの出会い

2016夏　大学のプロジェクト

→出身は違うけど、熱狂的みのかもファンに



２年間みのかも市民と関わって気づいたこと

問題意識：つながってない？

①頑張っている地元民

「誰かが方向性を統一しないとねえ…」

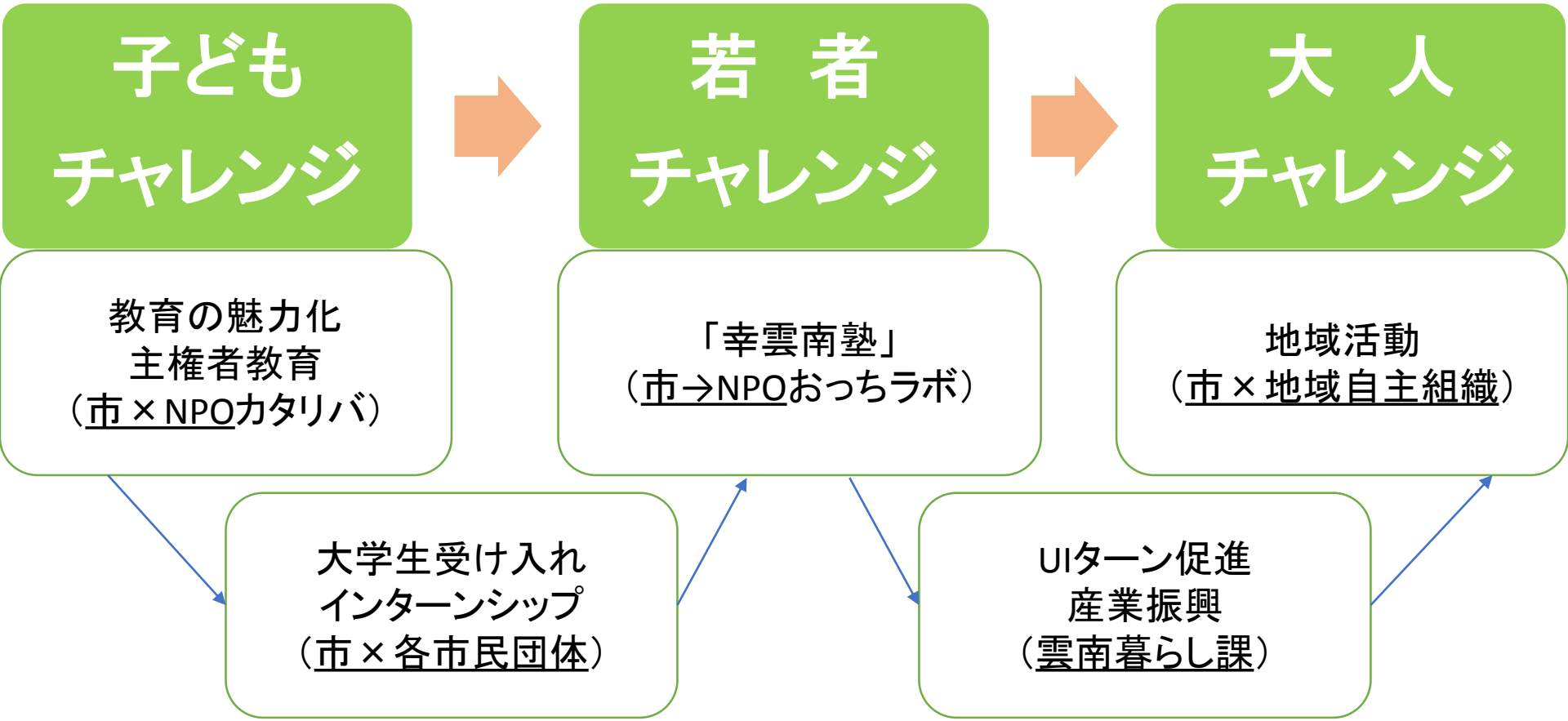
②意欲ある若者

「関わり方が分からない。」

「若者だけでやるのは難しい。」

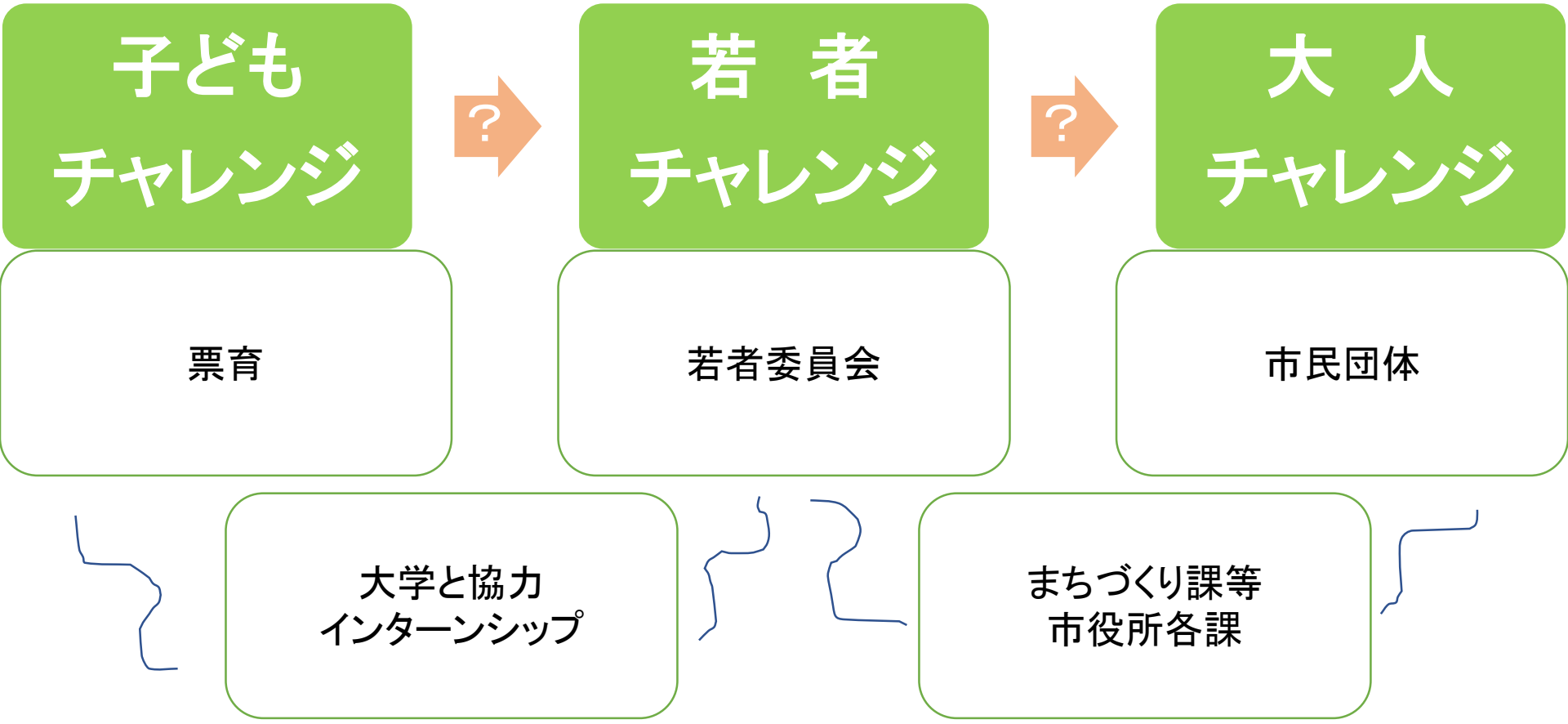
事例：雲南市

特長①市全体が連携「チャレンジの連鎖」



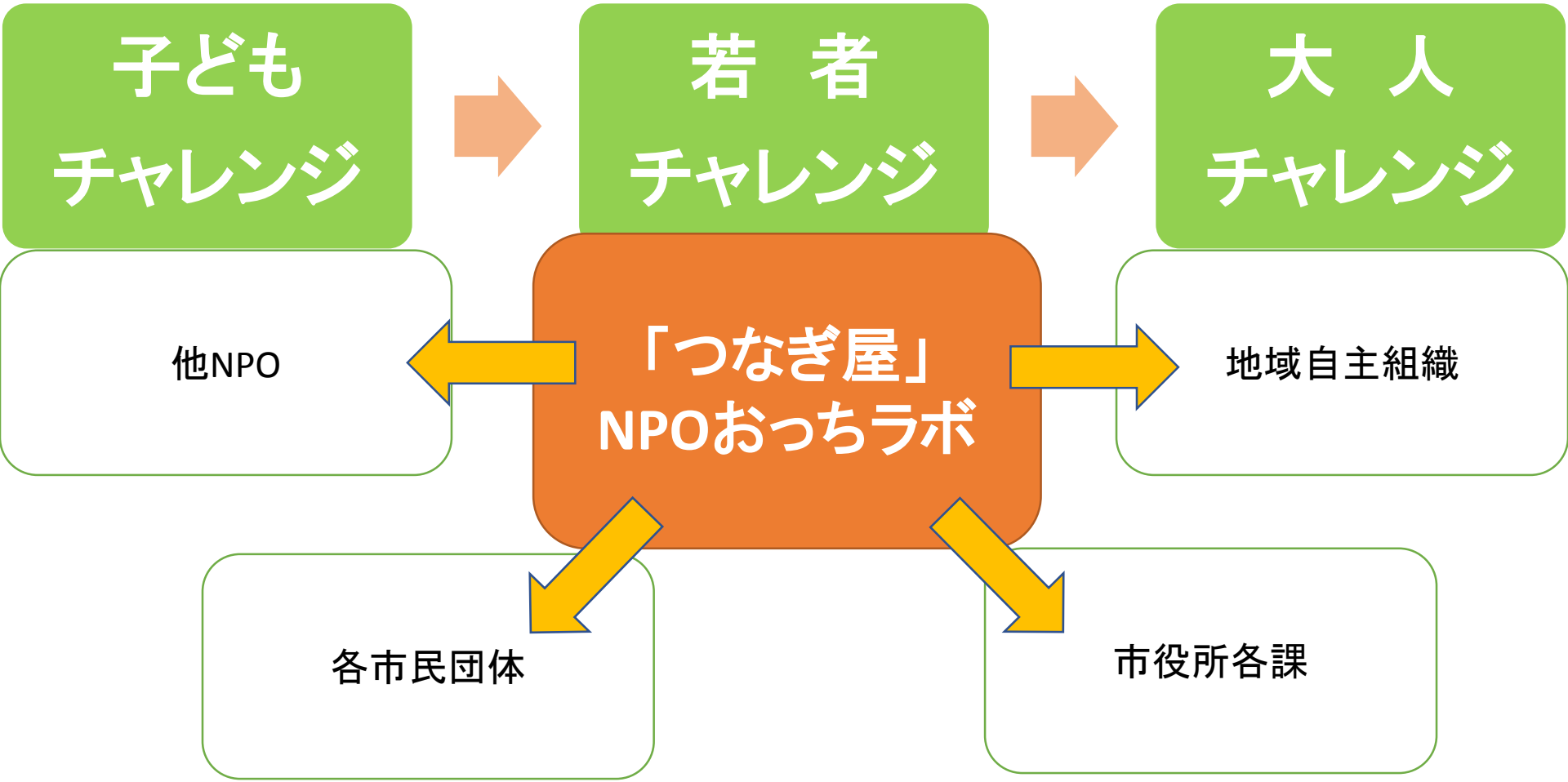
みのかもも十分ありまっせ！

しかし！繋がってないと各活動の間で、人が離れてしまう！



事例：雲南市

特長②若者の選択肢「コーディネーター」



事例：雲南市

特長②若者の選択肢「コーディネーター」

つなぎ手がいる結果…
例１:「スペチャレ基金」
→市内公募した特別なチャレンジに応援助成金
→事実上のベーシックインカム制度

例２:「各高校でのトークフォークダンス」
→地域の大人と高校生が、１対１で夢を語る
→70人超の地域の大人を高校に集めた

みのかもも、若者も、「つながり」でもっと輝くのでは？

→みのかもらしさや、今あるものを
　しっかりと生かした、
「リアリティのある計画」が必要！

20代の委員会OBOGによる「つなぎ手」計画

①美濃加茂市にとって、

→つながりがあれば各活動がもっと輝く

→各団体に次世代の担い手誕生

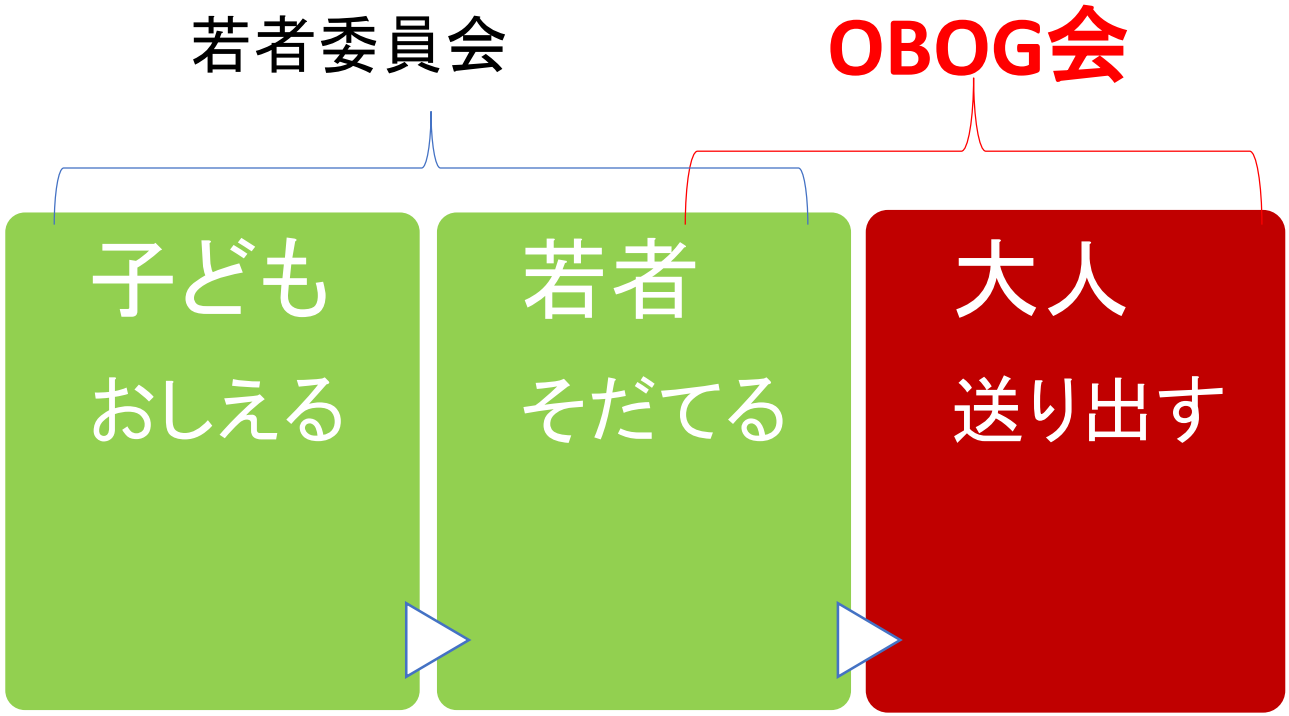
②若者にとって、

→地域に居場所ができる

→個性を生かせる「それぞれの関わり方」

20代の委員会OBOGによる「つなぎ手」計画

なぜOBOG会が？（＝若者委員会とのすみ分け）



「つなぎ手」５ヵ年計画

１年目：委員会が市民団体と仲良くなる

→それぞれの市民団体と「関係性」をつくる

・KPI：連絡を取る市民団体の数＝５団体

２年目：委員会×市民団体のコラボ企画

→裏の意図：市民団体同士の協力

・KPI：コラボ企画実現数＝３企画

「つなぎ手」５ヵ年計画

３年目：組織体制整え、自走開始

OBOGをコミット可能度で3つに分ける

①運営事務局：有償スタッフ（2,3名）

②プロボノ（地元在住等3,4名）

③ボランティアスタッフ（3,4名）

・KPI：①～③の合計＝10名（委員輩出数の半数）

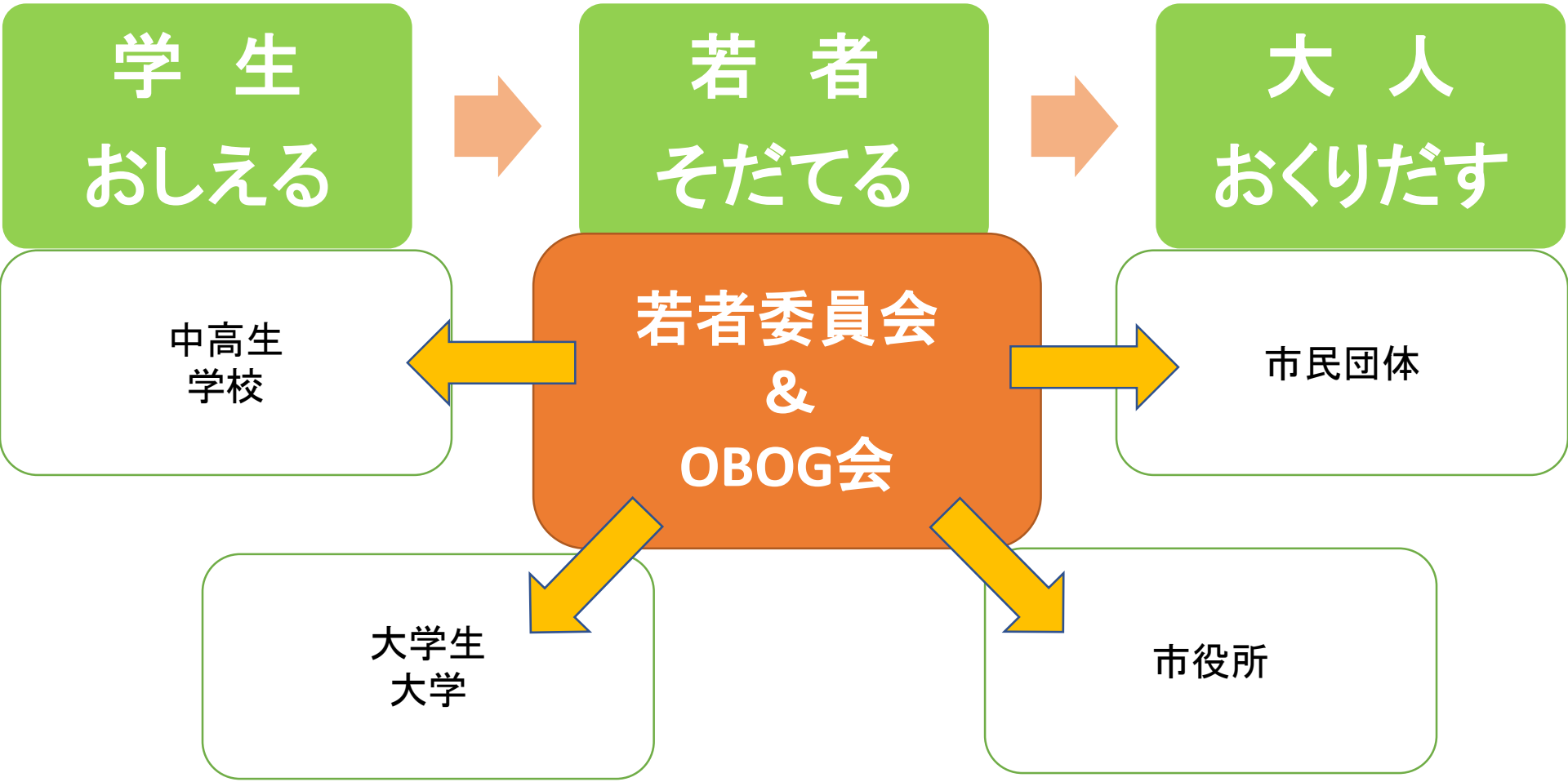
「つなぎ手」５ヵ年計画

４年目：OBOGが地域活動の現場で担い手に

・KPI：現委員＆OBOGで市民団体の活動に携わった人数
＝20人（累計委員数の約半数）
（※ただし在住場所は問わない）

「つなぎ手」５ヵ年計画

５年目：担い手を超えた「つなぎ手」誕生



おわりに

「あなたが変化になりなさい。」

・もちろん政策提言という形で、
　美濃加茂を変えようとするのも大事だが、

・まず、僕が動くこと、僕が変わることから。

ご清聴ありがとうございました